

講義名	労働経済論				
担当教員	丸山 亜希子				
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
近年、日本の労働市場は大きく変化している。パートタイマー等の非正規社員が増加し、一方で働く女性や高齢者が増えている。さらに、正規社員については成果主義が導入され、従来の終身雇用制度を前提とした日本的雇用慣行は崩壊に向かっていっていると言われている。この講義では、日本の労働市場を経済学の視点から把握し、そこから何らかの政策的含意を考える。					
到達目標					
経済学の基礎知識を労働市場に適用して、労働市場の現状を的確に把握できるようになる。例えば、終身雇用制度はメリットがある一方でデメリットもある。こうした各制度のメリット、デメリットをしっかりと理解することで、労働市場の変化を理解できるようになる。 経済学視点で適切な政策を検討することができる。現状を正しく把握できるようになれば、それを踏まえてどのような政策が有効かも検討できるようになる。					
提出課題					
普段（平常時）の課題と、期末試験があります。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
課題を課した次の授業回で解答・解説を行う予定です。					
評価の基準					
普段（平常時）の課題 30点 期末試験 70点 合計 100点					
履修にあたっての注意・助言他					
締切り厳守です。期限後の提出は未提出扱いとします。					

教科書				
.使用しない.				
プリント資料及び参考文献				
レジュメと課題等を配布します。レジュメには一部空欄を設けます。 主要参考文献 「労働経済学入門」 太田 聡一、橋本 俊紹 有斐閣 その他参考文献 「労働経済学」大森 義明、日本評論社 「労働経済学入門」大竹文雄、日本経済新聞社				
授業計画				
1. イントロダクション＝この授業で扱う内容の紹介 2. データでみる日本の労働市場 3. 賃金と雇用の決まり方（1）労働需要 4. 賃金と雇用の決まり方（2）労働供給 5. 賃金と雇用の決まり方（3）労働 6. 賃金格差：なぜ人によって賃金は違うのか 7. 学びと訓練（1）～学歴 8. 学びと訓練（2）～訓練 9. 日本の雇用慣行 10. 内部労働市場とは 11. 人が仕事を辞める時 12. 離職と転職：労働市場の流動化 13. 失業 14. 若者を働きやすくする 15. 最近の労働政策の解説				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
予習・・・課された課題（宿題）に取り組む。（2時間/回） 復習・・・要点をまとめたノートを作成すること（2時間/回）。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
目標、を達成することで、社会的にみて望ましい、個人の行動、企業の行動、政府の行動を考えることが可能となる。これにより、ディプロマ・ポリシーの「人間、社会に関するこれまでの学問成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題について、幅広い視点から考察し課題を提案することができるようになる」に到達する。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				
新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスの修正がある。				